



日本初開催 東京2025デフリンピック

デフリンピック日本代表選手と交流 in 小金井市

山田選手「それぞれの異なる文化を楽しくもくもく」

東京2025デフリンピックは日本初開催。全国各地で様々なイベントが行われている。編集部はこの夏、小金井市役所で行われたイベント『「デフリンピック」を知ろう』取材したので、様子をお届けする。

デフリンピックに抱く期待

8月24日(日)、錦城生も多く利用するJR武蔵小金井駅から歩いて5分のところにある小金井市役所第二庁舎8階会議室にて、デフリンピック関連イベント『「デフリンピック」を知ろう』が開催された。会場では、東京都聴覚障害者連盟会長の栗野達人さんとデフ陸上の山田真樹選手が登場し、超満員の30人以上の参加者に話をしてくれた。

まず始めに、栗野会長がデフリンピックについて簡単に解説された。デフリンピックとは耳の聞こえない人の参加する国際大会で、これまで24回行われており、今回で25回目。デフリンピックよりも長い歴史がある。「今回初めて日本で開催されるため、家族や友達に見てもらいたい機会になると思います」と栗野会長は語る。



デフリンピックの豆知識を入れた話をする山田選手

栗野会長は東京2025デフリンピックが、耳の聞こえない人にとって手話が言語であり命であることを知ってもらう良いきっかけになるだろうと期待を寄せた。



デフスポーツの工夫について山田選手に指名されて答える委員長

続いてデフ陸上選手の山田真樹選手の講演。国分寺市にある東京経済大学卒業で、今日のイベントにも縁がありま

国際大会の魅力

2017トルコ大会では金メダル獲得、2022ブラジル大会ではコロナのため日本チーム棄権となったことに触れ、今年出場する4つの競技のうち1つでも金メダルを

【緊急】編集部全落！開会式当選者急募！

11月15日(土)から26日(水)にかけて開催される東京2025デフリンピック。21競技行われる予定で、射撃以外のすべての競技を事前の申し込みなしで、誰でも無料で観戦することができる。



小金井市役所の前に設置されていた特別展示

例えば小金井市のイベントでお会いした山田選手が出場する陸上競技は、駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場で17日(月)から25日(火)にかけて行われる。編集部は15日に東京体育

館で行われる開会式に参加しよう、と編集部全員で応募。しかし、高倍率のため、全員が涙の落選をしてしまった。もし11月の開会式に当選したという猛者がいれば、ぜひ開会式の様子を取材させていただきます。編集部員に一声かけてください。お願いいたします。(梅)

「共生社会を作るきっかけに」

全日本ろうあ連盟 倉野さんにインタビュー



東京2025デフリンピックの準備・運営を担う組織の一つ、全日本ろうあ連盟・デフリンピック運営委員会事務局長の倉野直紀さんにお話を伺った。8月8日、早稲田駅から近い連盟事務局を訪問し、大会の意義などを聞いた。

日本初開催の意義

当日は手話通訳士の方に同席していただき倉野さんは手話で応じて下さった。取材させていただいた。倉野さんによると日本初開催となる今回の東京デフリンピックは、耳の聞こえない人(ろう者)にとって、いろいろな意味を持つ。1つ目は、社会に耳が聞こえないということをもっと理解してもらうことだ。近年バリアフリー化が進みつつあるが、聴覚障害への対応はまだ少ない。「耳が聞こえないということは、音声コミュニケーションが出来ず、ある意味外国人と同じバリアがあるのです」と倉野さん。さらにろう者だということは外見では分かりづらいこともあり、理解してもらうことは大変で、「デフリンピックはそんな社会を変えるきっかけになるはずだ」と期待をしているそうだ。

共生社会を作るきっかけに

2つ目は、日本でデフリンピックを開催してほしいという声に応えることだ。日本でデフリンピックが開催されたことがなかったが、2014年の東京2020オリンピック開催決定から開催を望む声が高まった。国や都とも協力して苦労して準備を重ねて、国際ろう者スポーツ委員会に承認されたそうだ。3つ目は共生社会の実現だ。デフリンピックは聞こえる人と聞こえない人が協力して運営される。「それは共生社会の1つの形です」と倉野さんは考える。そのような共生社会を作るきっかけにしたいそうだ。

東京大会の楽しみ方

東京大会では、陸上やバスケットボール、ボウリングやオリエンテーリングなど21競技が行われる。倉野さんは「自分の好きな競技、知っている競技に行くのが一番いいですよ」と大会の楽しみ方をアドバイスしてくれた。デフリンピックの競技中は、補聴器などを外す決まりのため、音での合図をすることが出来ない。そのため陸上競技では、スタートをランプの色で合図をする。



手話で「デフリンピック」

サインエールは作られた。倉野さんは、デフアスリートの方もうれしいのではないかと話す。

倉野さんは、小中高全てを通常学級の学校に通っていた。小学生のときからバレーボールをやっていたが、声掛けが聞こえず限界を感じて中学でやめてしまった。その時は誰もデフリンピックやデフバレーのことを教えてくれなかったそうだ。「自分も含めて、おそらく皆知らなかったのだと思います。知っていれば、高校でも続けてデフリンピックを目指していたと思います」と振り返る倉野さん。倉野さんのように耳が聞こえない子どもでも、ろう学校ではない学校に行く選択をする人が多いので「もし身近にろう者の方がいたら、デフスポーツについて教えてあげてほしいです」と語る。そして、錦城生にむけても「耳が聞こえなくてもいろいろなことに挑戦している人はたくさんいるので、高校生の皆さんにもっと夢を持ってほしいですね」とメッセージをくれた。(梅)

東京2025デフリンピック開催！

2025年11月15日(土)～26日(水)

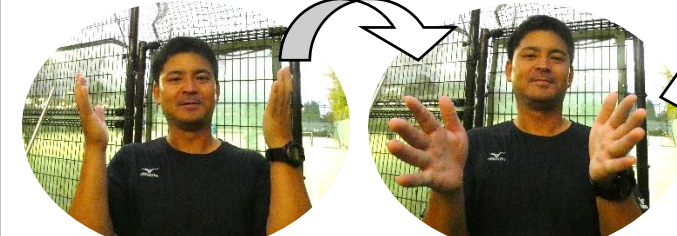
ボウリング(東大和グランドボウル)や卓球(東京体育館)、バドミントン(京王アリーナTOKYO)、オリエンテーリング(日比谷公園)など錦城近くで行われます！※射撃は非公開

各競技は予約なし、無料で誰でも見るできるので、ぜひ応援しに行きましょう！

大会HPはコチラ➡ <https://www.deaflympics2025.com/> デフアスリートを身近に感じよう！

手話を覚えよう！⑥

今回、手話を実演して下さいしたのは、体育科の山崎隆宏先生。第6弾で紹介するのは、サインエールの一つの手話で「頑張れ」という意味。開いた両手で顔を挟むように縦に位置し、きらきらさせた後、力を込めて両手を前に出す、というもの。ぜひ実際にデフリンピックを応援するときに、使ってみてほしい。



(新聞委員会の「手話を覚えよう！」について)良い取り組みだと思ふ。この機会に生徒の皆にデフリンピックを知って興味を持ってもらえたらいいな。(山崎先生)